

例示によって示されるもの - 「～タリ～タリスル」 -

木下 りか

大手前大学

kishita@otemae.ac.jp

1. はじめに

「(～タリ)～タリスル」(以下タリスルとする)とナドはともに例示に関わる表現である。

(1)休みの日には散歩をしタリシテのんびり過ごすのが好きです。

(2)休みの日には散歩をするナドしてのんびり過ごすのが好きです。

先行研究においてそれぞれの意味は次のように記述されている。しかし両者の相違は明確ではない。

タリスル：いくつかのことがら、行為のうちの代表的なものを二、三あげる表現。(中略)ひとつだけ例をあげて、他にもあることを暗示する場合もある。(『日本語文型事典』p.214 下線は引用者)

ナド：「並列詞「など」は、列挙された最終要素に後接し、その要素以外にそれと同一の集合をなすものとして並列されるべき要素が他に存在することを示す。(中略)個別要素を部分集合として示しつつ、じつはそれを含む一つの全体集合を提示すると言ってもよい。「など」の機能が「例示」であると言われてきたのは、そうしたことによるものだろう」(金水他編 2000：211、下線は引用者)

タリスルは他に次のような意味を持つことも指摘されている。

「ある状態、行為を交互に繰り返すときの様子、あるいはふたつの対照的な状態を表す」

(『日本語文型辞典』p.215)

(3)明日は晴れタリ曇ッタリスルでしょう。

「例を一つあげる言い方。ほかにも可能性があるという含みで、直接はっきり言うことを避けるときなどに使われる。距離をおいたやゆ的な表現。」(『日本語文型辞典』p.215)

(4)あの人一人だけ抜け駆けしてタリシテ。

これらを視野にいれ、ナドとの比較によってタリスルの表す例示の内実を考察する¹。

¹ 比較の対象とするのは、「ナドだ」「ナドする」という形で述語に用いられる場合のナドである。次のように格助詞が後接する場合はタリスルが用いられないため、比較考察の対象外とする。

・先回の会議では社会福祉問題(ナド/*ダッタリ)が議題にあがった。

2. 例示

例示：同一の集合を成すものとして並列されるべき要素がほかにもあることを表す。

例をひとつあげる場合

- (5)子供が大きくなって家族がそろうことはめったにないのですが、年に数回はいっしょに食事を(したり/するナド)します。(cf. 食事をします。)(『日本語文型辞典』)

複数を列挙する場合

- (6)ホームページを作る時白の背景色に白の文字でキーワードの言葉を入れる、大量の同じ言葉を入れるなどすることはスパム行為です(反則です)。
(7)キーワードの言葉を入れタリ、大量の同じ言葉を入れタリスルことは、スパム行為です。
(cf. 入れて～入れる)

2.1 状態の例示(「Nダッタリスル」など)

状態を例示する場合、タリスルは、例示された事柄のどれが実現するかが時や条件によって異なることを表す。

- (8)彼女の絵のモチーフは鳥だつたり人だつたりするが一貫して現代人の不安が描かれている。
(『日本語文型辞典』)

次例に示すように、この文脈でナドが使えないわけではない。

- (9)彼女の絵のモチーフは鳥や人ナドですが、一貫して現代人の不安が描かれている。

しかし「作品によってモチーフが異なる」ことを表す場合にはタリスルのみが適格となる。

- (10)彼女の絵のモチーフは作品によって鳥だつたり人だつタリスルが、一貫して現代人の不安が描かれている。
(11)??彼女の絵のモチーフは作品によって鳥や人ナドですが、一貫して現代人の不安が描かれている。

次例においても同様にタリスルは「日によって持っている鞆の素材が異なる」ことを表している。

- (12)彼女の持っている鞆は日によって皮製だつタリビニル製だつタリスルが、どれもすてきだ。
(13)彼女の持っている鞆は皮製やビニル製ナドだが、どれもすてきだ。
(14)??彼女の持っている鞆は日によって皮製やビニル製ナドだが、どれもすてきだ。

以上の結果は次のようにまとめられる。

- (15)タリスル:時や条件によって異なる要素が並列されるべきものとして存在することを表す。

2.2 動きの例示(「Vタリスル」)

動きを例示する場合、タリスルとナドとは意味が近似する。

- (16)休みの日には散歩をしタリ、本を読んダリシテすごします。
(17)休みの日には散歩をする、本を読むナドしてすごします。

状態を例示する場合に準ずるならば、タリスルは「時や条件によって異なる動きが並列されるべきものとして存在する」ことを表すことになる。ただし、「時間によって異なる」ということは「動き」の本質であるので、タリスルそれ自身の機能の存在は状態を例示するときのようには顕在化されない。したがって、ナドとの差異も明示的にはならない。

3. あげられた例が対義関係にある場合: 反復

あげられた例が対義関係にある場合、タリスルは反復（同じ状態や事態の繰り返し）を表す。

(18) アルバイトに来ている学生は曜日によって男子学生だったり女子学生だったりしますが、みなよく働いてくれます。（『日本語文型辞典』）

タリスルは時や条件（この場合は「曜日」）によって異なる要素が並列されるべきものとして存在すること表す。ところが「男子学生」と「女子学生」とは対義関係にあり、例示された以外の要素の想定が不可能である。そこで示された対義関係にある例（男子と女子）が条件（曜日）によって異なる要素として並列され、反復（同じ状態や事態の繰り返し）を表すことになる。

ナドは例示された以外の同類の要素の存在を表す。対義関係にある例をあげる場合、それ以外の要素は想定できないのでナドは用いられない。

(19) * アルバイトに来ている学生は男子学生である、女子学生であるナドしますが、

(20) * アルバイトに来ている学生は男子学生や女子学生ナドですが・・・。(cf. (9)(13))

タリスルはさまざまな対義関係にあるものを例示することができ、いずれの場合も反復を表す。

(21) 雛に餌をやっても食ベたり食ベなかつタリスル。（肯定と否定）

(22) 海の中は暑かつたり寒かつたりしますので、衣類には気を付けてください。（程度性）

対となってあげられた例が回復動作の関係（いったん生じた状態をもとに戻す関係）にある場合には、ある状態から別の状態へそしてまた元の状態へという動きの連続性が表されることになる。

(23) 良子は部屋の中を行つたり来つたりした。(cf. 例文(21)(22))

(24) * 良子は部屋の中を行く帰るナドした。

4. さまざまな可能性の存在

可能性（時空を超えた仮定世界）について述べる場合にタリスルを用いるには、聞き手の想定外の（聞き手が非常に可能性が低いと考えている）事態について述べるという文脈が必要となる。

(25) # 明日は晴れたり / * 晴れるナドする。

(26) A: このごろ雨が多いね。明日は嫌いな体育のある日だから明日も雨が降るといいなあ。

B: そういうふうに思うときに限って（晴れタリスル/??晴れるナドする）んだよ。

タリスルは、例示された以外の可能性（仮定条件の下に成立する世界 = 条件によって変わる世界）が並列されるべきものとして存在すること、すなわち多様な可能性の広がりを表す。ただし通常可能性は多様に広がっており、いずれかの可能性にコミットせずに単に多様な可能性の

広がり述べることに意味はない。あえて述べることに意味があるのは、聞き手の想定が及んでいない可能性に言及する場合だと考えられる。タリスルはこの文脈下で用いられる。

話し手自身も非常に可能性が低いと考えていることについては、タリシテの形になる。話し手自身、可能性が非常に低いと考えている事柄についてあえて可能性が存在すると述べるところから「揶揄する」ニュアンスが出る。

(27) A：彼女、さそっても来ないわよね。 B：意外に来タリシテシテ。

5. 終わりに

タリスル:時や条件によって異なる要素が並列されるべきものとして存在することを表す。

可能性について述べるのではない場合

- a. 動きの例示の場合:(時や条件によって変化する(=動きの本来の性質を持つ))動きが並列されるべきものとして存在することを表す。
- b. 状態の例示の場合:時や条件によって変化する状態が並列されるべきものとして存在することを表す。
- c. (例示される内容が動きか状態かに関わらず)対義関係にある例が示される場合:
タリスルは時や条件によって変化する動きや状態が並列されるべきものとして存在することを表すが、例示された以外の動きや状態の想定は不可能である
示された例が時や条件によって変わるものとして提示される=反復

可能性について述べる場合

可能性(条件によって変わる仮定の世界)が並列されるべきものとして存在することを表す 通常の文脈では意味を持たず、聞き手の予測外の例を提示する場合に用いられる。
次例のような曖昧・ぼかし表現についての考察は今後の課題である。

(28) 実は結構いろんなところで(紹介されてたりする/紹介されている)中野自動車。実は
TV番組にもウチのクルマが使われてたりする…。見覚えあるヒトはいるかな…?

(29)自分に似合う色(の化粧品:引用者の補足)・似合わない色も、思い込みを捨てて試してみると意外に(違ってたりする/違って)よ。

参考文献

金水敏・工藤真由美・沼田善子編(2000)『時・否定と取り立て』岩波書店

グループジャマシイ編(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版

陳連冬(2005)「「など」と「なんぞ」の意味・機能:「など」との比較を含めて」『世界の日本語教育』15

日本語教育学会編(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店

Ruchira Palihawadana(2002)「(～たり)～たりする」文の意味・用法について」『金沢大学留学生センター紀要』5